

◆ 新技術定着試験

ヒトエグサ養殖指導（八重山地区）

八重山農林水産振興センター 牧野清人

1. 目的

八重山地区において、ヒトエグサは需要は多いものの漁業者による養殖ものは殆ど出回っておらず、本島産の養殖ものか黒島や白保等の天然ものが主に流通している。現在石垣島と与那国島で特定区画漁業権が設定されているが、普及指導員による試験養殖が主で、販売できるほどの生産ではない。平成23年度までの養殖試験により、石垣市においては名蔵湾の漁業権内で十分収穫が可能であることが確認されたことから、本年度から八重山漁協組合員2経営体に対して養殖技術指導を行った。また、与那国においては芽だしはするものの生育状態が良くない。現在、比川地先ならびに上地地先に漁業権が設定されているが、設置可能な面積が広いことを考慮し、比川地先において広範囲に網を張り、芽出しならびに生育状況について調べた。

2. 材料及び方法

石垣市名蔵地先において、10月1日および10月15日にヒトエグサ採苗用の網を設置した。網は2経営体で合わせて40枚設置した。網の高さは底面から約50cmとし、5枚重ねで設置し、芽出し、3cm程度の藻体の伸長が確認された場合には網を1枚ずつに分けて展開した。

与那国比川地先において、10月17日にそれぞれ4枚重ねで4カ所に網を張った。網張りの高さによる種付き状態の比較を目的とし、全ての網について片側を70cm、一方を10cmの高さとするN字張りを行った。芽出しおよび藻体の伸長が確認された場合は網を1枚ずつに分けて展開した。

3. 結果及び考察

石垣市名蔵地先においては11月下旬に最初の芽出しが確認され、年末12月末にかけ、全体でみられるようになった。

その後芽出しが網全体に拡大するまで5枚重ねのまま放置した。その間定期的に生育状況を観察し、3cm程度まで藻体が伸張したのを確認して、1月上旬に漁業者に指導し網を1枚ずつに分離、展開していただいた。その後経過観察し、ヒトエグサの伸びを確認して2月8日から収穫を開始していただいた。漁業者に確認したところ、収量にはばらつきがあったが、1網あたり2kg～5kgであった。収量の少ないケースでは、伸張した藻体の先端が種放出もしくは珪藻の繁殖により茶褐色に変色し、溶け出したことによるものと考えられる。

与那国町では10月28日に現地調査したところ、網への着生が確認された。その後12月13日に再度確認したところ、若干の伸びが確認された。その際、芽出しが多くみられた高さに網を張り直し、1月30日に2枚ずつに分離、展開した。その後も観察したが、3月25日まで伸びが見られなかったことから、試験を終了した。

名蔵地先においては収穫のタイミングなどについて、種放出の状態等、観察しながら指導してゆきたい。また、珪藻の繁殖についても藻体を観察しながら注意を促す必要がある。

与那国比川地先においては5年以上継続して養殖試験を行ってきたが網へのヒトエグサの着生は確認できたものの収穫可能なほどの生育はみられなかったため、漁協と相談の上、他の方法の有無もしくは断念も視野に入れて今後について検討する必要がある。



図1. 名蔵地先における網張り作業においてJICA研修生にも指導 (10/1)



図4. 名蔵地先におけるヒトエグサ養殖網本張り状況 (1/17)



図2. 名蔵地先における芽出し (11/28)



図5. 名蔵地先にて生育したヒトエグサ (2/5)



図3. 名蔵地先におけるヒトエグサ着生 (12/28)



図6. 名蔵地先で収穫されたヒトエグサ (2/8)



図7. 与那国比川地先におけるヒトエグサ網のN字張り(10/30)



図10. 比川地先におけるヒトエグサの生育状態(1/30)



図8. 比川地先におけるヒトエグサ網の状態(12/14)



図11. 比川地先におけるヒトエグサの生育状態(3/25)



図9. 比川地先におけるヒトエグサ芽出し(12/14)